

改歳かいさいに思う

昨年は、世界遺産に登録された富士山からのご来光を求めて、老若男女こそぞつて登山をされたようだが、六根清浄ろくこんじやうじやうを唱える山岳宗教は、庶民のなかに今なお息づいている。登山は人生と同じだと例えて言われるが、厳しい道のりの末、たどり着いた山頂の清浄な気韻に触れ、自己再生の意識付けがはかられる。この輪廻りんね転生の精神性を含めて世界遺産登録となったと理解している。▼やり直せるならやり直したいと思うことの、ひとつくらいは誰にでもあるもので、初日の出に手を合わせ、素の己と向き合うその心は、お正月に曆をめくり、「今年こそは」と誓いを立て、ビッグプッシュする「気」と相通じるものがある。▼世界初の女性エベレスト登頂者、田部井淳子氏は、登山は挑戦ではないと言った。征服でも、制覇でもなく、すばらしく楽しいものだ。詰め込み過ぎはよろしくない。むしろ「余白」を持つことにより、モチーフとなる大切なものがより見えてくる。フェルメール作『牛乳を注ぐ女』の余白の意図は実にうなずける。「間」も大切な要素だ。改歳を迎えるにあたり、これらのことを含みながらの2014年としたい。(市長)

広告